

## 熊本県立八代工業高等学校 定時制課程 平成30年度学校評価

|   |
|---|
| <p>1 学校教育目標</p> <p>平成30年度「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」と本校校訓「誠実」に則り、家庭と地域と学校が連携・協力し合いながら、生徒の「生きる力」を育み、生徒の「夢を叶える」教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力と基本的生活習慣の充実・定着</li> <li>○地域に愛され、地域とともにある学校づくり</li> <li>○キャリア教育の推進と自己実現</li> </ul> |
|---|

|  |
|--|
| <p>2 本年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的生活習慣の確立と豊かな人間形成の醸成</li> <li>(2) 基礎・基本を重視した学力の定着向上</li> <li>(3) 人間形成の場としての体育・文化活動の充実</li> <li>(4) キャリア教育の充実と自己実現</li> <li>(5) 安全教育・健康教育、危機管理の充実</li> <li>(6) 校務整理と業務改善</li> </ol> |
|--|

| 3 自己評価総括表 |                 |                 |   |  |    |   |
|-----------|-----------------|-----------------|---|--|----|---|
| 評価項目      |                 | 評価の観点           | 具体的目標                                     | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題   |
| 大項目       | 小項目             |                 |   |  |    |   |
| 学校経営      | 「働きながら学べる学校」の推進 | ・多様な生徒の実態に即した指導 | ・きめ細かな生徒の実態把握と個別指導の充実                     | ・職員会議や毎月の生徒情報交換会等の充実開催<br>・生徒個別面談の重視や地域の教育資源の活用連携  | B  | ・一人一人の様子について丁寧な情報交換を毎月1回行うことができた<br>・行事における地域の関係機関等との連携や行事参加、作文応募等を深めた  |
|           | 教職員の資質向上        | ・校内研修の充実        | ・分掌部の組織的取組の再構築                            | ・分掌部会の開催と計画的な研修の実施   | B  | ・連絡会後の時間活用により部会、研修を充実させることができた  |
| 学力向上      | 学校生活への意欲向上      | ・出席率の向上         | ・生徒の年間出席率平均85%以上                          | ・毎月の情報交換会で、出席等の状況を全職員で共有<br><br>・生徒への授業や行事の予定表を掲示  | B  | ・情報交換会での出欠把握、担任を中心に欠席の多い生徒に対する対応を行った<br>・生徒ロッカーの横に授業予定を掲示した<br>・長期欠席者がいたこともあり、全体の出席率は75.6%であった(12月21日現在)                    |
|           | 学習への意欲向上        | ・授業の充実          | ・わかる授業の実践<br><br>・授業時数の確保<br><br>・基礎学力の把握 | ・生徒による授業評価や研究授業の実施<br>・授業時数合計を全職員へ周知<br>・新入生考査やベーシックタイム確認テストの結果を分析し、全職員へ周知することで、「分かる授業」実践のための改善工夫に役立っている | B  | ・授業評価は1学期、2学期に1回ずつ行った。また、研究授業は参観者のアドバイスを全体で共有できるようにした<br>・授業時数の合計は各学期ごとに全職員へ周知した<br>・新入生考査とベーシックタイムテストは、正答誤答を細かく分析した結果を周知した |

|              |             |  |  |  |   |  |
|--------------|-------------|--|--|--|---|--|
|              |             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の定着</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課外授業の実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部・進路部と連携し、夏季休業中の課外を実施</li> </ul>   | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期休業中の課外を、進路指導部の計画に基づき実施した</li> <li>・ベーシックタイムを実施し、課題に取り組む時間を設けた</li> </ul>   |
| キャリア教育（進路指導） | 進路保障と進路先開拓  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望進路への進路決定</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者の希望先への内定</li> <li>・就労体験の実施と職業観の育成</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワーク、障害者就業・生活支援センター等関係機関との連携</li> <li>・就労体験などを通じた適性判断の実施</li> <li>・企業見学実施</li> <li>・就職情報報告会実施</li> </ul> | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力、高卒認定試験対策、進路対策の三つの柱で行った。それぞれで一定の成果はあったが、生徒の受講意識を高める、夏季講座の説明会など取組みを事前に行えばよかった</li> <li>・進路選択における視野を広げることができた</li> <li>・インターンシップは6人が取組み、適性を知り、将来の進路を考える上で参考になった</li> <li>・就職情報は担任を経由して、適切に伝えることができた。卒業が心配な状況で就職について考える余裕がない卒業生もいた。各機関と連絡を取合い、今後につなげていける指導が必要である</li> </ul> |
|              |             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学希望者の希望校合格</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学校、短期大学への合格</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学学習指導の充実実施</li> </ul>   | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季講座から個別指導により、受験科目の教科指導を行った。定時制のため、指導に当てることのできる時間が少ないので早めに取り組むことが必要</li> </ul>   |
| 生徒指導         | 規範意識の育成     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会、学校のルールの遵守</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻、欠席をせずに登校できる</li> <li>・高校生らしい服装・頭髪である</li> <li>・SNSなどの正しい活用法の定着</li> <li>・交通事故ゼロ</li> <li>・特別指導ゼロ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の登校指導や個人面談</li> <li>・定期的な服装頭髪指導</li> <li>・各種講演会の実施（情報安全、交通安全、薬物乱用防止等）</li> </ul>                         | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻、欠席の改善につなげることはできなかった</li> <li>・生徒は落ち着いた生活を送っている</li> <li>・1日のスマホ等使用時間が3時間以上の生徒が多く、改善が必要である</li> <li>・交通事故、特別指導ともに0件であった</li> </ul>   |
|              | 豊かな人間形成     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション力の向上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら挨拶をすることができる</li> <li>・自他を尊重することができる</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の登校指導、挨拶運動</li> <li>・学校行事の充実</li> <li>・SST実施</li> </ul>  | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら挨拶をする生徒、挨拶をしない生徒の二極化が見られる</li> <li>・長期欠席を除き、参加率はよかった</li> <li>・SSTは学年を越えて実施し、他学年との交流を深めることができた</li> </ul>  |
| 人権教育         | 人権教育推進体制の確立 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の実践力向上</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員の年1回以上の校外研修参加</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育に関する校外研修紹介、参加啓発</li> </ul>   | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外研修年1回以上職員参加率100%。また、11月連休中開催の地元</li> </ul>   |

|                  |                |  |  |   |   |  |
|------------------|----------------|--|--|---|---|--|
| の推進              |                |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内人権教育研修会の実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修内容について管理職との内容精選</li> </ul>   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>開催大会においても目標の25%参加を達成できた</li> <li>校内人権教育研修会を実施できた</li> </ul>                                   |
|                  | 人権意識向上         | <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育内容の精選</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>各年次毎の人権教育LHR計画作成</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>各年次担当者・人権教育推進委員会と話し合い学習指導案の原案作成</li> </ul>   | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>一部変更もあったが概ね達成出来た。</li> <li>係からの早めの提案が課題である</li> </ul>   |
|                  | 命を大切にすることを育む指導 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自他の命を大切にすることを育む</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>仲間づくりの推進</li> <li>自己肯定感や自尊感情を高めさせる</li> <li>特別支援教育の充実</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介LHRや仲間づくり、ワークショップ、コミュニケーション能力向上のための講演会等の実施</li> <li>教育相談係、SC、SSW等との連携</li> </ul>                         | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>年次ごとにLHRで担任を中心に実施した</li> <li>講話や日頃の授業の中で自己肯定感・自尊感情を育んだ</li> <li>コーディネーターを中心に連携がとれた</li> </ul> |
| いじめの防止等          | いじめの防止等        | <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめについての認識と理解</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの場面を見た時に、注意ができる生徒の育成</li> <li>いじめを予防できる力を身につけさせる</li> <li>いじめゼロ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション力の育成</li> <li>いじめを許さない雰囲気作り</li> <li>あらゆる機会をとらえいじめについて考えさせる</li> </ul>                              | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの認知は0件であった。しかし、人間関係が原因で長期欠席をしている生徒もいる。生徒間のコミュニケーションにおいては課題もある</li> </ul>                   |
|                  | いじめの実態把握       | <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの認知</li> <li>早期発見、解決に向けた取組</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの早期発見と対応</li> <li>いじめの解決</li> <li>いじめに対する学校家庭の連携協力</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとのアンケートを実施し、検証する</li> <li>面談週間の実施</li> <li>防止対策委員会の開催</li> <li>生徒連絡会の実施</li> <li>いじめ匿名通報アプリの導入</li> </ul> | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>職員で生徒情報を共有することができた</li> <li>いじめ匿名通報アプリでの通報やアンケートによるいじめを訴える記述もなかった</li> </ul>                  |
| 地域連携コミュニティスクールなど | 学校・保護者・地域との連携  | <ul style="list-style-type: none"> <li>防災型コミュニティ・スクールとしての連携</li> <li>安全管理</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>全日制と協力した避難所運営マニュアルの関係者への周知</li> <li>避難訓練・防災意識の高揚</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した防災避難の改善や防災に関する教育活動の実施</li> <li>家庭連絡の徹底</li> <li>地域の就労先との連携</li> </ul>                                 | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>八代市からの依頼で正式に本校と避難所協定が結ばれた。防災CMS協議会委員と有効に意見を交換することができた</li> </ul>                              |
|                  | 開かれた学校作り       | <ul style="list-style-type: none"> <li>定時制高校の魅力発信</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会等の充実実施</li> <li>ホームページによる本校の魅力発信</li> <li>地域の資源を活用した教育の充実</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスの実施</li> <li>くまもと教育の日の実施</li> <li>ブログ等の更新</li> <li>関係機関と連携した学校行事の開催</li> </ul>                      | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパス、くまもと教育の日（公開授業）において本校の教育活動をアピールできた</li> <li>学校HPのブログを通して効果的に定時制の魅力を発信できた</li> </ul>  |
| 健康教育             | 基本的な生活習慣の育成    | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣確立の必要性を啓発</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>手洗い、うがい、風呂に入る、食事は3食食べる、夜1時前に就寝することの自覚を促</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常の生活状況を内科検診時の問診票にて把握する。</li> </ul>  | B | <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査の実施により、自己管理意欲は向上したが、睡眠時間等の不安定さに課題が残った</li> <li>食育は、年度当初に計画</li> </ul>                  |

|          |           |                      |  |   |   |   |
|----------|-----------|----------------------|--|---|---|---|
|          |           |                      | し、行動変容を目指す   | ・食育授業を通じ、自己管理する力を養う   |   | していたクリスマスディナーを、2回の準備を踏まえて実施した。生徒の出席状況も良く、食に対する大切さを伝えることが大体できた   |
| 学校行事等の充実 | 学校行事の活性化  | ・生徒の主体的な活動を促進        | ・学校行事参加率を80%以上にする<br>・生徒が自己肯定感や自己有用感を持つ                            | ・体育大会や文化祭校外体験学習等、行事の内容を早期に伝え、LHR等を通じて意義を知らせる。                     | C | ・長期欠席の生徒もいたため、目標は達成していない。また、学校評価アンケートより学校行事を楽しむにしている生徒の割合が約半数であるのも課題である<br>・心のアンケートの結果より生徒の自己肯定感は低いことが課題である |
|          |           | ・PTAと連携した行事の取組       | ・PTA主催行事の実施と保護者参加率アップ<br>・学校新聞の活用                                  | ・関係分掌と連携した学校行事実施<br>・保護者の行事への参加体制の確立                              | B | ・体育祭後の豚汁会などに多くの保護者の方の参加があった<br>・学校新聞をとおして保護者に行事等のPRできた  |
|          | 生徒会行事と部活動 | ・生徒会活動の充実(定通文化大会を含む) | ・生徒会の取組を活性化させ、学校行事が充実したものにする<br>・自ら進んで参加する意欲的な生徒の育成<br>・クラスマッチ等の実施 | ・生徒会執行部のリーダーシップの育成と積極的に取り組める体制の構築<br><br>・生徒一人ひとりが活躍できる学校行事の企画・運営 | B | ・生徒会を中心に、学校行事への貢献は大きく、一人一人が活躍することができた<br>・年度当初と比較すると行事への出席率も良くなった<br>・生活体験作文において全国大会に出場し優秀な成績(読売新聞社賞)を収めた   |
|          |           | ・部活動の充実(定通体育大会を含む)   | ・活動の活性化  | ・活動しやすい環境の整備(用具等)<br>・通年の活動ができるよう指導・助言                            | A | ・全種目で全国大会に出場することができた<br>・顧問の先生方のご尽力で、3種目とも通年での活動を行うこともできた   |

|   |
|---|
| <p>4 学校関係者評価</p> <p>○定時制においては、多種多様な課題やニーズを持った生徒に対して、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着、出席率の向上に対して、きめ細やかな対応がなされていることを実感している。</p> <p>○数年前からの取組を強化されてきた様々な行事等の特別活動は、生徒一人一人の個性を発見・発揮する機会やコミュニケーション能力の向上等につながっている。</p> <p>○全国高等学校定時制通信制生活体験発表大会への13年ぶりの出場、読売新聞社賞の受賞は、生徒本人の努力の積み重ねであり、それを引き出して指導されてきた教職員の結果である。</p> <p>○厳しい教育現場の中で、昼夜を問わず生徒の人格形成、自己実現への道を切り拓き後押しされている学校長をはじめ教職員の献身的かつ教育者としての矜持に対して敬意を表す。</p> <p>○公開授業に参加して、暗いイメージから明るいイメージに年々なっている。学習意欲があれば単位修得に結びつけることができる非常にユニークな総合学科のカリキュラムの内容である。生徒も益々自分の目標を持って、前向きに夢を持って進んでほしい。</p> |
|---|

## 5 総合評価

- 生徒の就業率は、5月に41%であったが、2月には75%となり、昼間就労しながら、勉学に励んでいる。家庭的には、家族関係や経済的な厳しさがあり、小中学校時代に不登校を経験した生徒が多い。学校評価アンケートでは、就労している生徒の97%が、アルバイトと学校生活を両立させていると答えている。また、保護者もその頑張りを認め、100%がアルバイトとともに意欲的に勉学に励んでいると答えている。さらに、生徒の92%が定時制高校に入学して良かったと肯定的に答えている。
- 定期考査に向けての勉強や家庭学習への取組は、20%と低く、また、学校での様子や友人のことを家族に話すと肯定的に答えた生徒は、54%である。生徒の居場所づくりや励ましとともに、将来を見据え、生徒の実態に合わせた学力向上や人間力・コミュニケーション能力を育む指導が必要である。
- 少人数の生徒集団であるが、生徒主体となる学校行事の開催やそのための教師の支援、指導に職員が一致協力して業務を遂行できた。
- 生徒指導、人権教育、特別支援教育と丁寧に取り組みられ、生徒の情報交換や定時制生徒の理解研修の取組がなされている。

## 6 次年度への課題・改善方策

- 生徒の特徴に合わせた進路指導の充実が今後の課題である。SSWや行政との連携を図り、保護者の理解や生徒本人の自己肯定感、有用感の醸成が特に必要である。
- 教職員の分かりやすく丁寧な教科指導、生徒指導の充実、特別支援教育力の向上、ICT活用能力や指導力向上のほかに、福祉行政など関係機関との連携や相談を深め、在学中の生徒支援などを手厚く実施し、定時制教育活動の充実実践が期待される。
- 生徒の食生活や睡眠等の生活習慣の改善、自立の意識付けなど生徒一人一人に寄り添った健康教育や学習指導の充実を図り、家庭との連携を強化し、さらに地域への生徒の活動のPRを今後も行っていきたい。